

協S
トCHI
全OCHI
8月からスタート決定
健診活用とSAS対策セミナー

全ト協が主催し、ヘルスケアネットワークが受託する令和2年度の「定期健康診断の有効活用と睡眠時無呼吸症候群(SAS)対策セミナー」は、新型コロナウイルスの影響で日程が延長となっていたが、このほど8月からのスタートが決定した。テーマは「定期健康診断の有効活用と睡眠時無呼吸症候群(SAS)対策セミナー」ドライバーのSOS信号を見つけて健康経営を目指す」。8月6日に熊ト協、同26日に富ト協、同27日に福井ト協、同28日に秋ト協でそれぞれ開催される。

全ト協では、定期健康診断の結果から得られたドライバーの健康状態の情報を「輸送の安全」に活用できるよう、「運輸ヘルスケアナビシステム」を構築し、健診後の教育や健康支援に事業者が役立てられるよう支援を行っている。

今回のセミナーでは、健康起因事故の予防対策の解説とともに、ナビシステムの効果的な活用について説明が行われるほか、新型コロナウイルスなどの感染症予防にも焦点を当て、昨今注目される健康経営優良法人認定制度の解説も行われる。その上、トラック

筆者自ら講演する。講師を務めるのは、OCHIS保健師の黒田悦子氏と作本貞子副理事長。同ナビシステムを活用した定期健康診断のフォローアップについて解説するほか、健康経営や「トラック運送事業者におけるSAS対策の

スタートから運用まで」など講演する。なお、同セミナーはGマーク取得申請の加対象となる。セミナーの申し込み、詳しい問い合わせはOCHISまで。9月以降のセミナー予定は順次ホームページに掲載される。(木村麻理奈)